



本堂欄間の龍

東林山 法雲寺

〒667-1311兵庫県美方郡村岡町村岡2365
TEL：0796-98-1151・1161 FAX：0796-98-1168

法雲寺報

<http://www.houun.net> Eメール：info@houun.net

さわやかな季節となりました。

今夏は記録的な猛暑でしたが、お彼岸も過ぎるとその季節相応の風情になる・・・自然というものは規則正しく移り変わっていくものです。それに引き換え人間の世界はどうでしょう？益々以ってドロドロと世界が練り広げられています。

結局は自分の欲求を抑える事が出来ない人が巷に溢れて、現在のような状況を作り出しているのではないのでしょうか？

現代の我々は「諦める」という事が決断しにくいと言うのか、「諦める」＝「敗北」と考える人が多いのではないかと思います。

「諦める」というと消極的な感じですが、その語源を尋ねるに「明きらむ」（明らかに見極める）から派生し、「事情を見極めて決断する」と言う智恵の意も持っています。

私もそうですが長年の学校教育では「諦める」という言葉はその影すら登場しませんでした。どちらかという「日々の努力の積み重

ね」によって不可能も可能になる。だから努力あるのみ・・・と努力一辺倒の教えを受けて来た様に思えます。しかし、実際には努力の積み重ねだけでは叶わぬこともあるのです。

これから社会は尚一層変化していくことでしょう、昔のように行くことのほうが少ないのかもしれない。誰でも今まで通り、それ以上を欲するのは当たり前ですが、時として乗り越える事が出来ない壁に直面することもあるかと思えます。そんな時にいきなり猪突猛進するのではなく、努力する価値があるのか？他に迂回路は無いのか？等など・・・と明らかに見極めて頂きたいと思えます。

くれぐれも空しい努力に精も根も尽き果て自分を、周りを、見失わないようご注意ください。

「諦める」というのは敗北の言葉では有りません。賢く生きるための一つの智恵です。

（自戒の気持ちを込めて・・・）

抽象的な内容になりましたことお許し下さい

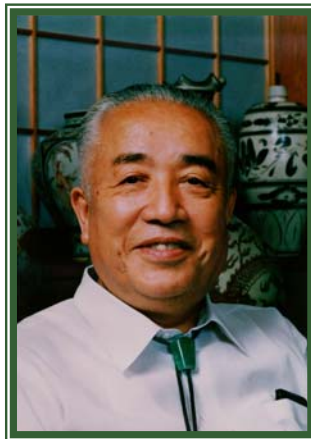
濱田叡観（義明）師ご逝去

山名史料館の展示品充実に多大なご協力を頂いておりました濱田叡観（義明）師が去る5月8日逝去されました。

そうげんいんとくごうだいあじやりえいかんだいかしやう

法名：聡眼院得業大阿闍梨叡観大和尚、享年85歳

ご存知のように師は病院経営の傍ら美術品収集に生涯をかけられ、故郷村岡の為に明治維新時に流出した山名家伝来の品々を各方面から収集され、惜しむことなく山名史料館の収蔵品充実に御喜捨頂きました。また、晩年には仏教への帰依を篤くされ八十代に入ってから出家得度、修行を積まれ、ご自宅を宗教法人「玄明寺」と改められまして、祈りと美術品の鑑賞・収集の日々を過



ごされて居られました。

生前の多大なご協力に深く感謝すると共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。尚、山名史料館では師の寄贈品を専用展示するコーナーを現在準備中です。

濱田義明氏略歴

大正15年村岡町山田生れ。陸軍中野学校にて軍人教育を受け軍務に付くも終戦を迎え、戦後は一時神戸の御木本真珠に書生として身を寄せその後、医業を志し病院経営に乗り出す。以降幾つかの病院を経営し、事業の傍ら阪大医学部に通い医師免許を取得。また徳川一族会にも席を置き会の運営に尽力。徳川一族会での活動を通じて美術品蒐集家としての深い知識を養う。1970年の大阪万博の折には実行責任者として参画。大阪府福島区野田にあった美術喫茶「クジャク」は有名。

（住職聞き覚え）

山門屋根瓦葺き替え（ご報告）

7号（7/1発行）にて、ご報告致しました如く、山門脇の塀の瓦の修理も整いました。

これで山門を挟む両方の塀の瓦が一新されたわけですが・・・肝心の山門は漆喰の取れたところから赤土が流れ出る等傷みも進み、不恰好なことで修理を考え瓦屋さんに相談させて頂いたところ、比較的低予算で工事が行えるとの事で、塀の瓦葺き替えと併せまして今回山門の瓦も葺き替えさせて頂きました。こ



（計画外のことで御座いますが、機会を逸しますとなかなか着工に踏み切れません。住職の勝手な判断で御座いましたがご理解願いたいと思います。）

れで門前の風情も一層引き締まったものになりました。

（計画外のことで御座いますが、機会を逸しますとなかなか着工に踏み切れません。住職の勝手な判断で御座いましたがご理解願いたいと思います。）



本堂前・縁側ガラス戸交換

お彼岸前から本堂前及び奥縁側のガラス戸交換の工事に取り掛かっていただいております。

8月末と9月初旬の台風では希に見る強風で古くなったガラス戸がしなり、壊れないかと心配をしたものですが、難なく乗り切りました。しかし昭和30年代から今日までの約半世紀の間にガラスを止める建具が細りガムテープで補強し対応する、建物事態の歪みでガラス戸が動かなくなったりと不具合が目立つようになって来まして、今回の本堂前・縁側のガラス戸交換の工事に至っております。今回の工事では出来るだけ開口面積を多く取って頂ける事を念頭に工務店様にご無理を申ししており



ます。現在、工事も順調に進み新しいガラス戸も収まり後は付帯工事の終了を以って完了の状態です。



上記の山門瓦葺き替え工事と合わせまして、平成18年に控えております「天台宗開宗千二百年」に対する法雲寺としての慶讃記念事業と致したいと思っております。

尚、皆様には改めてましてご説明させていただきますので、ご協力ご協賛どうかよろしくお願いいたします。

ブナの木遂に倒木

4月の強風で二股の一方が裂け、主幹だけ辛うじて残っていた一二峠のブナ（無難）の木ですが、8月末の台風16号によって残っていた幹も倒されてしまいました。



4月の倒木の際にこの冬には伐採を考えていた矢先です。樹木にも定められた寿命があるようです。今後は林業家に処理をゆだね、倒木の処理と後継の樹木の育成を考えなければなりません。

特別寄進のご報告

御協力誠に有難う御座います。

法雲寺護持運営の為に有効に活用させていただきます。尚、上記の田中秀和様（父君：春夫氏、中西）は新たに入檀頂きました。